

2022.1.5

NPOフォーラム・だより No.98



NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka.npo@gmail.com 公式サイト http://bunka-isan.awa.jp

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

あけまして
おめでとうございます

NPOのまちづくり活動への温かいご理解とご高配に感謝するとともに、新型コロナウイルスの収束と皆様のご健康を心より祈念しております。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

第27回 安房地域母親大会

シンポジウム「女性の人権と戦争を考える」

期日 2022年1月22日（土）13:30～15:30

会場 館山市コミュニティセンター 第一集会室

参加費無料（資料代500円）定員75名（予約制）

第一部：ミニ講演

あまはみちこ
・天羽道子さん（かにた婦人の村名誉村長）

やん ちんじや
・梁澄子さん（希望のたね基金代表理事）



第二部：対談

⇒ 参加希望のNPO会員は、1/11（火）までにNPO事務局へお申し込みください。

◎ 来場者は検温やマスク着用等の感染対策にご留意のうえ、
体調不良の場合はご来場をお控え下さい。

主催：第27回安房地域母親大会実行委員会

構成団体：国連NGO新日本婦人の会館山支部、国連NGO新日本婦人の会鴨川支部

国連NGO新日本婦人の会鋸南やまゆり班、連協安房地域女性連絡会

全日本年金者組合安房支部、NPO法人安房文化遺産フォーラム

女性の人権や生き方、日韓史問題などについて学ぶ機会として、お二人の講師をお招きします。

安房地域母親大会の初代実行委員長を務めた天羽道子さんは、売春防止法にもとづく婦人保護長期入所施設「かにた婦人の村（通称かにた村）」で、知的障害や精神障害を持ち自活困難な女性たちの生活を長く支えてきました。傷ついた女性たちは、自然豊かな環境で家族のように寄り添いながら、農園・洗濯・手芸・調理などの作業を通してゆったりと自分らしく暮らしています。そうした生活のなかで癒やされた一人の女性（城田すず子さん）が、戦後40年を経たときに従軍慰安婦だった過去を告白しました。仲間を慰霊してほしいという切実な願いに応え、1985年に「**噫従軍慰安婦**」と刻まれた石碑が建てられました。

梁澄子さんは、戦前に韓国済州島から安房に移住した海女たちの聞き取りをし、『**海を渡った朝鮮人海女－房総のチャムスを訪ねて**』を1988年に著しています。1990年から日本軍「慰安婦」問題に関わり、日韓の若者が共に学び、意識ギャップを埋めて、「終わらせる」のではなく、「記憶・継承」するために、2017年に「**希望のたね基金（通称キボタネ）**」を設立しました。性暴力のない、平和な社会づくりを旨として、セミナーやスタディツアー、留学支援など様々な事業に取り組んでいます。

太平洋を渡った房総アワビ漁師と 渡米前の資料調査&絵画展

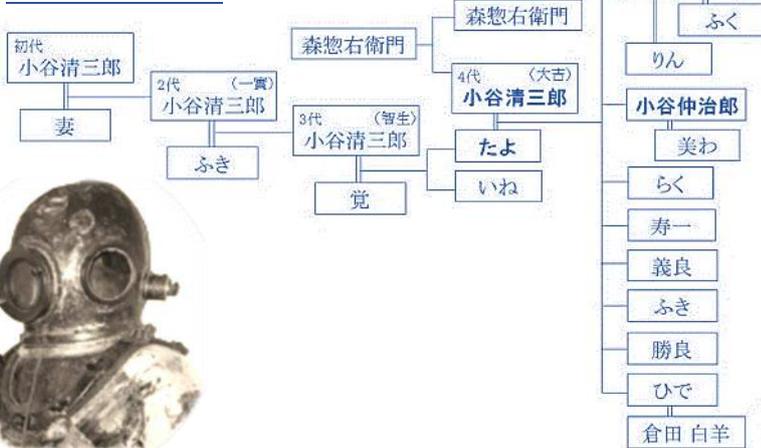
日時：1月21~24・28~31日(金土日月) 12~16時
会場：古民家ギャラリー&スペース MOMO
(南房総市岩糸 1093 TEL:0470-28-4621)

根本(南房総市白浜町)の海産物「金澤屋」を出自とする小谷源之助・仲治郎兄弟は、房総アワビ漁師らを率いて明治期に渡米し、カリフォルニアのモンレー湾域で器械潜水のアワビ漁に成功しました。

10年後に帰国した弟仲治郎は千田(南房総市千倉町)に住み、集落の若者を器械潜水夫として養成し、アメリカに送り込みました。

近年、大正期建築の仲治郎宅で、襖の裏張りから大量の古文書が見つかりました。「房総アワビ移民研究所」と協働で進めた調査研究は、くずし字の解読・目録づくりは500枚を超え、その大半は実家の両親や家族・取引先等との書簡であり、様々なことが明らかになってきました。

金澤屋・小谷家家系図



源之助・仲治郎兄弟の両親は小谷清三郎・たよです。入婿となって4代目を襲名し、村議員や小学校の学務委員などの要職を歴任しました。清三郎の実家の森家は、江戸期から続く根本村の名主で、明治期には村政や漁業のリーダー的役割を担っていました。1871(明治11)年に一族の森精吉郎や森惣右衛門(清三郎の兄)らが増田万吉(器械式潜水業の先駆者)を横浜から招き、器械式潜水具によるアワビ漁法の実証試験をおこない、国内初となる成果を上げました。根本から始まった器械式アワビ漁は、たちまち全国に広がっていきました。

明治初期の殖産興業において、乾鮑などの水産加工品は外貨獲得の対清国貿易重要輸出品として位置づけられ、品質向上や新製品の開発が奨励されました。乾鮑製造の技術に優れていた小谷清三郎は1883(明治16)年第1回水産博覧会で褒状を授与され、「製法宜キヲ得テ品位佳良ナルニ由リ清国人ノ嗜好ニ適ス而シテ販額亦尠シトセス其勞嘉賞スヘシ」と評されました。

1889(明治22)年、水産技術の向上や指導者養成のために水産伝習所(後の水産講習所・東京水産大学・東京海洋大学)が創設され、仲治郎は三期生として入学しました。

右の書簡は、金澤屋が清国貿易に直接関わっていたことがわかります。他の書簡からも、清三郎や源之助らが新潟佐渡や秋田能代など各地に出向き、指導にあたったことも推察されます。

後に源之助・仲治郎兄弟が渡米しアワビ漁や加工製造に関わった背景として、父清三郎が乾鮑製造の専門家として農商務省に知られていたことも関係していたのではないかと考えられます。



ゆかりの画家作品展

溝口七生 (みぞぐちかずお)

鋸南に暮らし2019年逝去。日米交流に貢献した画家。

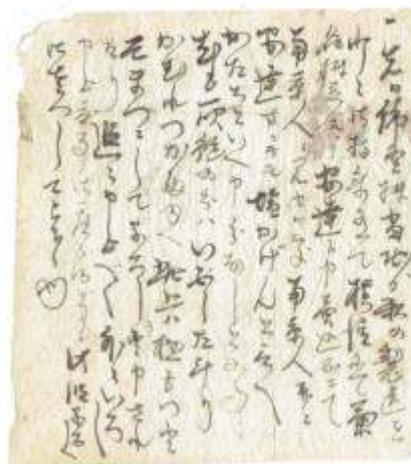
倉田白羊 (くらたはくよう)

源之助・仲治郎の義弟。近代自由画教育の発展に寄与。

ゆかりの映画上映

早川雪洲 (はやかわせつしゅう)

日本人初ハリウッド俳優。出演映画『戦場にかける橋』南房総市千倉町千田出身。兄は渡米したアワビ漁師。



【書簡】五月四日 小谷清三郎よりたよ宛
「菊名様へ入金の際并鮑売込之件ニ付書簡」 A-6

(前略)
一、先日綿貫様、当地方私の製造を少々御持参有て、横浜にて菊名様立合ニテ、安達下申売込屋にて南京人二見セ候処、南京人并ニ安達方ニテモ、塩かげんと言へかたちといへ申分なしとの事、尤も灰鮑の分はいふした計りかわれつかぬゆへ、此上ハ極もつとそまつにしてよろしきと申されたり、追々申上べく、外二いろく申上度事御座候得とも、此段よろしく御さつし可被下候也、 (後略)

第55回千葉県歴史教育研究集会 <オンライン開催>



期日 2022年2月23日(水祝) .. => 詳細はNPOのHP新着情報参照
 内容 10:00~12:00 講演「史学史からみた『歴史総合』」小川幸司さん
 13:00~17:00 分科会

- ① 小学校分科会 ② 中学校分科会
- ③ 日本分科会 ④ 歴史総合分科会 ⑤ 世界分科会
- ⑥ 地域分科会
- ・ 関 和美「鴨川町における戦中戦後の図書館・文化活動」
- ・ 佐野一成「館山発、地域と世界につながる戦争遺跡の保存活用」
- ⑦ 平和と民主主義分科会

参加費 一般 1,000 円、学生無料 => 申込はNPOで一括します。一次メ切 1/31

※ PCのない方はNPO事務所で視聴可。ご相談ください。

主催 千葉県歴史教育者協議会

NPOから2名が地域分科会で報告します。

関さんは、病院司書として働きながら、事務局サポーター・ベテランガイドとして活躍中！

佐野さんは、明星大学4年生で、安房西高校在学中からウガンダ支援活動に関わり、今回は卒業論文の執筆テーマを発表。

<旧千葉県立安房南高校木造校舎公開事業>

★オンライン講演会 => YouTubeで公開

「旧安房南高校木造校舎の魅力」

講師：夏目勝也氏（建築家）

新型コロナウイルス感染症拡大のため、代替事業としてオンライン講演会と写真パネル展が開催され、講演録画がYouTubeに公開されました。

チャンネル「安房文化遺産フォーラム」を検索してご視聴ください。

▶ QRコードからも見られます。



日刊建設工業新聞 2021.11.5付



旧第一校舎の外観④と教室（報道発表資料から）

安房南高校 旧第一校舎の価値紹介

千葉県教委からオンライン講演会

千葉県教委からオンライン講演会

千葉県教育委員会と県立安房南高校は3日、1930（昭和5）年に建てられた「安房南高校旧第一校舎」の価値などを紹介するオンライン講演会を開いた。夏目氏によると「玄関周や掃除を続けているが、使われることのない建物の老朽化に不安がある。活用を模索したい」と話した。安房南高校は創立100年を迎えた2008年に県立安房南高校と統合し歴史の幕を閉じた。旧第一校舎は県が管理し、愛する会も協力して保存している。

県教委と安房南高校は旧第一校舎の写真パネル展を開催している。館山会場（千葉県南総文化ホールギヤラ）の会期は7日まで。20・28日は館南会場（道の駅きよなん案内所ギヤラ）で開催する。

災で倒壊した県立安房南高等女学校校舎を当時の耐震構が技術で作られたゆがみの造で再建した。所在地は北あるガラス窓は「失われた条611。木造2階建てで技術として希少性がある。建築面積は約1100平方メートル。市民有志がメ大倉組が施工した貴重木造校舎を愛する会」の片一で開催する。

の価値などを紹介するオンライン講演会を開いた。夏目氏によると「玄関周や掃除を続けているが、使われることのない建物の老朽化に不安がある。活用を模索したい」と話した。安房南高校は創立100年を迎えた2008年に県立安房南高校と統合し歴史の幕を閉じた。旧第一校舎は県が管理し、愛する会も協力して保存している。

方義明会長も出席。「換気



写真パネルなど50点展示

旧安房南高校舎一般公開事業で、令和3年度県立安房南高等学校旧校舎一般公開事業の一つ、「写真パネル展」が館山市。写真、解説パネルは全50点。A2・3サイズのパネルが並び、11月7日までは全日展示。28日まで開催される。

県教育委員会、安房南高校が主催し、企画運営をNPO法人安房文化遺産フォーラムが担っている。同校舎は災害の経験を生かした耐震補強建築として、昭和5年（1930）に新築され、建設当時の様子を多くとらえており、平成7年（1995）3月14日（県指定有形文化財（建造物）となっている。展示されたパネルでは、関東大震災後に建

各会場の開催時間は、▽館山会場「午前10時〜午後4時、月曜休館」▽館南会場「午前9時〜午後5時、月曜休館」となっている。また、11月3日（午後1時〜2時半）には、安房南高校木造校舎

ウガンダコーヒー月間の報告と御礼

ウガンダ支援に9万円

館山のNPO 10月のコーヒー月間で

NPO法人安房文化遺産フォーラムは、ウガンダの子どもたちを支援するため10月に実施した「ウガンダコーヒー月間」の結果をまとめた。売り上げの1部の支援金が6万6000円、その他募金箱

うキャンペーン。売上げの一部は寄付される仕組み。同NPOが地域のコーヒー店に参加を呼び掛け、今年25店舗が参加。期間中の流通量は約100kgあったという。今回の支援金、寄付金は、ウガンダ意識向上協会に贈られ、食糧支援を始め、現地に安房南洋裁縫学校の運営子どもたちの教育、生活支援などに役立てられるという。

房日新聞 2021.12.7付



**ウガンダ支援
寄付つき珈琲**

*ウガンダコーヒー購入のご希望は、
オンラインショップ「館山まるごと博物館」
<https://awa-ecom.jp/online-shop/>
または、NPO フォーラム事務局まで
(090-3218-3479 粕谷)

<豆 or 粉>

100g : 570 円

200g : 1,030 円

500g : 2,200 円



※ 世界的な新型コロナウイルスの影響に伴う貿易品の高騰により、コーヒー豆の価格も値上がりとなりましたことをご了承のほどお願いいたします。

青木繁「海の幸」記念館 見学再開

館山市指定有形文化財の小谷家住宅（青木繁「海の幸」記念館）は、新型コロナウイルス感染症拡大のため長らく見学中止としていましたが、緊急事態宣言の解除に伴い 10 月より見学を再開しております。開館は土・日曜日、当面は個人・小グループのみとし、団体の入館は不可とさせていただきます。何卒ご了解のほどお願いいたします。

*入館料(維持管理費):一般 200 円, 小中高 100 円
(友の会会員および旧青木繁「海の幸」会員は入館無料)

ウガンダの子どもたちを支援するために、毎年 10 月に開催する「ウガンダコーヒー月間」キャンペーンは、4 回目を 25 店舗の協賛で実施しました。

新たに館山総合高校でも賛同し、生徒会として販売協力に取り組みが始まりました。

安房・平和のための美術展、安房西高校の支援金と合わせ、ウガンダ意識向上協会 (CUFI) への送金準備を進めています。販売・購入・愛飲にご協力下さったすべての皆様に御礼申し上げます。

1年生97人が観光の学び

館山総合高校 戦跡や文化財を見学

館山総合高校の「観光遺産」の校外学習が、将来に生かそうとが12日、館山市内であり、NPO法人安房文化遺産フォーラムのガイドで、1年生97人が戦跡や文化財などを見学し、学びを深めた。地域の観光資源、文

房日新聞
2021.11.19付



ガイドの案内で掩体壕を見学する生徒ら＝館山

口戦を隠すための施設、掩体壕では、NP Oのスタッフから「旋回力が優れ、米軍から

「恐れられていた」などとゼロ戦の説明を聞いた後、実際に施設を見学。コンクリートでつくり、さらに上に土を乗せて上空から見えないようにして飛行機を守っていた」といった話を聞いていた。家政科の山崎未虹さん(15)は「思っていたより小さく感じたが、今の時代には手づくりでつくられていてすごい。戦争は悲しいことだが、当時の人たちの苦労によって今がある。感謝したい」と話

